

大阪大学 医学部 医学科

The University of Osaka Medical School

2025

夢を
光に。

01 大阪大学 医学部の歴史

History

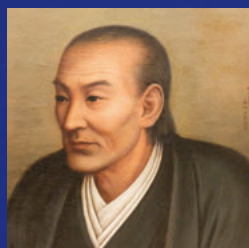
適塾 ＜史跡・重要文化財＞

1838年に緒方洪庵が大阪に開設した蘭学塾。西洋の進んだ医学、病理学などの学問を教える一方、当時流行したコレラなどの感染症の治療指針を示すなど医療の普及と向上に努めた。医師であり優れた教育者でもあった洪庵の下で学んだ塾生は、のちに明治の近代化の原動力となった。長与専斎や福沢諭吉など多くの逸材を輩出した。

町人の町大阪に生まれ、 緒方洪庵の適塾を源流と仰ぐ医学部

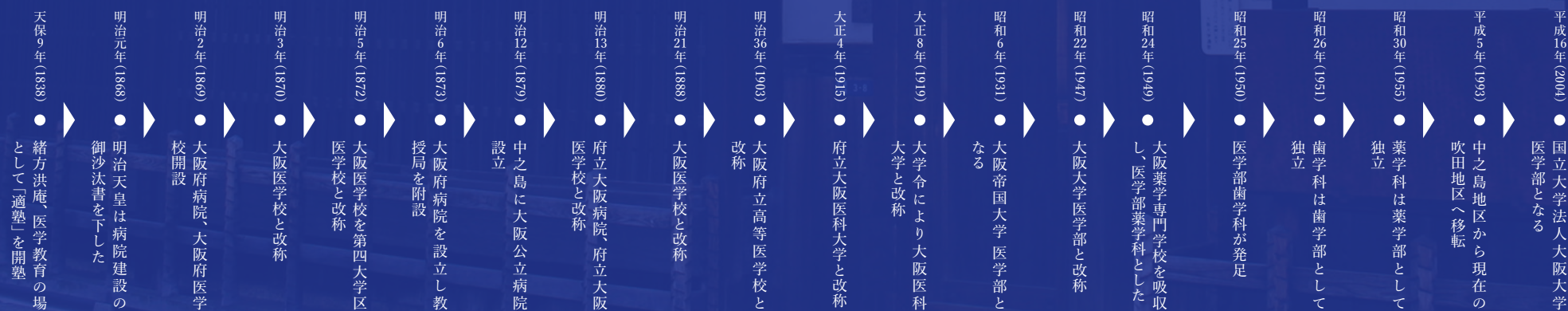
大阪大学医学部の系譜は緒方洪庵が1838年(天保9年)に大阪・船場に開いた適塾までさかのぼります。明治新政府は1869年(明治2年)上本町大福寺に仮病院・医学校を開設、その運営はボードイン、エルメレンスとともに適塾の門下生が担いました。この医学校が以後150年にわたって多くの起伏を経ながら大阪帝国大学医学部(昭和6年)、そして大阪大学医学部(昭和22年)へと発展して今日にいたっています。このように大阪大学医学部は大阪という町を背景として生まれた適塾の自由な学問的気風や先見性を精神的な柱として受け継いできたことが大きな特徴です。

受け継がれてきた歴史 先人達の夢



緒方洪庵

緒方洪庵は幕末の蘭方医として、また蘭学の教育者として第一人者と仰がれた。最新の医療の知識を紹介するため多くの蘭書を翻訳する一方、自らも多くの著書を残している。そんな中で洪庵にとって「扶氏経験遺訓」(30巻)の翻訳は終生の出版大事業であった。これはドイツの医師フーフェランドの内科医としての50年の経験をまとめた書で、その蘭語訳書を日本語に重訳したものであり、日本の内科学の発展に大きな貢献を果たした。



02 適塾から受け継いだ精神 大阪大学の現在

Today

伝習から発信へ。

大阪大学大学院医学系研究科・医学部は、かつて緒方洪庵が大阪に開いた「適塾」の自由な学問的気質や先見性を精神的な柱として受け継ぎ、様々な名称に変化しながら、日本の、そして世界の医学医療の発展と社会貢献に努めてきました。これからも世界の医学界のリーダー的役割を担い、常に新しい医学を発信します。

世界をリードする研究成果

大阪大学医学部医学科では、優秀な医師を世に送り出すだけでなく、世界をリードするような医学研究者を多数養成してきました。学外では国立循環器病研究センターや、医薬基盤・健康・栄養研究所などと連携し、学内では附属共同研究実習センター、附属動物実験施設、微生物病研究所、蛋白質研究所などの講座を協力講座とし、講座や学部を超えた研究環境に備えています。

2002年以降、医学、生命科学分野で7件のCOEプログラムを獲得し、また世界トップレベル国際研究拠点促進プログラムとして2007年「大阪大学免疫学フロンティア研究センター」、2023年「大阪大学ヒューマン・メタボース疾患研究拠点」が発足し、わが国屈指の研究拠点大学として、免疫学、感染症学、オルガノイド生命医科学、情報・数理科学、遺伝学、分子細胞生物学などの分野で世界最先端の研究に取り組んでいます。



世界トップレベルの医学部附属病院

大阪大学医学部附属病院は、1086床を有する高度先進医療を推進する病院です。地域の中核病院として幅広い医療活動を行うと同時に、様々な疾病の原因の解明と治療法の開発、臓器移植、テーラーメイド医療などの先進医療に取り組んでいます。同時に、附属病院には、将来のわが国の医療を担う優秀な医師を育てる使命があります。そのため、学生期間中の臨床実習や卒後臨床研修システムをさらに充実させ、全人医療ができると同時に未来医療を開発する医師の養成を目指しています。

03 医学科の 使命・ポリシー・学修成果

Mission, Policy, Outcome

医学科の使命

大阪大学は、「知の創造、継承及び実践」を使命とし、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、学問の独立性と市民性を備えた世界水準の高度な教育研究を推進し、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを目的としています。その目的の実現のため、学部および全学的な教育研究組織において、「高度な専門性と深い学識」、「教養」、「国際性」、「デザイン力」を身につけた知識基盤社会のリーダーとなるべき人材を育成します。医学部医学科では、大阪大学が掲げるこれらの教育目標を实践すべく、以下のような使命を掲げています。

大阪大学の使命「知の創造、継承及び実践」とモットー「地域に生き世界に伸びる」に則り、地域医療に貢献し、世界をリードする医師・研究者の養成が医学部医学科の使命である。

医学科ディプロマ・ポリシー

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、医学部医学科では、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、医学部医学科において定める専門分野に関する所定の単位を修得し、次のとおり優れた知識と能力を身につけた学生に学士(医学)の学位を授与します。

高度な専門性と深い学識

- 医学の徒としての使命を理解しそれを実践するとともに、生涯にわたり自らの学術的能力を高め続ける姿勢を示すことができる。
- 高い倫理観に基づき、他者への理解と配慮を持ち、チームの一員として利他的な姿勢で行動することができる。
- 医学を修めたものとして要求される高いレベルでの幅広い医学的知識、技量を身につけ、臨床医学、医学研究、科学全般の分野においてこれらを応用することができる。

教養

- 共通教育で人文・社会系および自然科学系の幅広い分野にわたる豊かな教養、専門教育でコミュニケーション力や論理的思考、職業的倫理観、生涯にわたり学ぶ姿勢を涵養することで、幅広い人間性を身につけている。

国際性

- グローバルな視点から医療を見つめ、異なる価値観を尊重することで、良好なコミュニケーションを図ることができる。
- 国際医療においても自らの役割を果たすことができる。

デザイン力

- 医学の進歩における研究や開発の意義を理解し、自ら到達目標を設定できる。
- 到達目標に向けた研究計画の作成、データの解析、発表・討論ができる。
- 医学を修めたものとして、自らが属する社会や地域の医療の意義と社会的責任を理解し、実践できる。





医学科カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能を修得させるために、教養教育系科目、専門教育系科目及び国際性涵養教育系科目を体系的に編成し、先進医療を担う医師及び医学研究者として必要な知識、技能、倫理観、リサーチマインドを養うことを目標にしたカリキュラムを策定しています。

人格形成教育

- 共通教育で人文・社会系および自然科学系の幅広い分野にわたる豊かな教養、専門教育でコミュニケーション力や論理的思考、職業的倫理観、生涯にわたり学ぶ姿勢を涵養することで、幅広い人間性を備えた人材を育成する。

基本的医学教育

- 基礎医学および臨床医学の講義、実習を通じて、医師・研究者になるための幅広い知識、研究手法、臨床技能を習得する。
- 医学英語教育、海外留学、海外施設との交流を通じて、国際的な視野とコミュニケーション能力を涵養する。

発展的医学教育

- 基礎医学研究配属、研究室配属、MD研究者育成プログラムを通じて、学生自らが未知の領域を解明するという、研究者としての基本的能力を養成する。

社会的教育

- 社会医学実習、海外留学、学生間国際交流、臨床実習、地域医療実習などを通じて、地域医療および国際医療の意義を理解し、これらに貢献するための自らの役割を認識する能力を養成する。

医学科アドミッション・ポリシー

求める人材像

医学部医学科では、地域医療に貢献する人材や、世界をリードする医師・研究者を養成することを教育目標とし、これを実現するため、以下のような資質・能力を持った学生を受け入れます。

- (1) 高度な倫理観に裏付けられた豊かな人間性を持ち、組織においてリーダーシップを発揮できる者
- (2) 医学科の教育課程を履修するに必要な高度な学力、知性および語学力を有する者
- (3) 医学の進歩に貢献するとの強い信念を持ち、それを実現する行動力を有する者
- (4) 多様な価値観を受け入れる柔軟性と知への探究心、自由で豊かな発想力を持ち、創造性を発揮できる者
- (5) 社会における自らの役割を理解し、協調性と責任感をもってそれに貢献する意欲のある者

入学者選抜の基本方針

上記のような人材を受け入れ、また多様な学生を確保するため、国内の学生においては一般選抜と学校推薦型選抜による入試を行います。また、学生の学習環境としてグローバルな多様性を確保するため、私費外国人留学生特別入試を行い、医学とその他の関連学問分野との融合を図るため、学士編入学試験を行います。

具体的選抜方法と、資質・能力との関係

- 一般選抜では、特に(2)、(3)を重視し、大学入学共通テストで(2)を、個別学力検査で(2)を、面接において(1)、(3)、(4)、(5)に関する資質を評価し、選抜を行います。
- 学校推薦型選抜では、特に(1)、(4)を重視し、大学入学共通テストで(2)を、面接で(1)、(3)、(4)、(5)を、小論文で(2)、(3)、(4)を、調査書で(1)、(2)、(3)、(5)を、推薦書で(1)、(2)、(3)、(5)を評価し総合的に判定します。

医学科の学修成果

医学科の学修成果は、卒業時に達成しておくべき知識・技能・態度として、使命およびディプロマ・ポリシーをもとに作成しました。

プロフェッショナリズムと生涯学習

医師として求められる役割・使命を理解し、それを高度な倫理観をもとに実践するとともに、生涯にわたり学び続ける姿勢を示すことができる。

- 専門職としての医師に求められる役割・使命を理解しそれを実践できる。
- 医療倫理を身につけ、これに従って行動することができる。
- 医学知識・技術を生涯にわたり学習し、向上させることができる。

臨床・研究の基礎となる幅広い医学知識・技能

将来、我が国の臨床・研究の進歩に貢献するために必要な、幅広い医学知識・技能を身につけ、それらを科学的根拠に基づいて応用することができる。

- 生命科学の基本を、分子・細胞・組織・臓器・個体の各レベルで理解し、説明できる。
- 人体の構造と機能の異常、疾病を引き起こすメカニズムを理解し、その対応法を説明できる。
- 医師として必要な臨床的知識・技能を修得し、実践できる。
- 患者情報をまとめ、診療録記載・鑑別診断・プレゼンテーションができる。
- 科学的根拠に基づいた医療を実践できる。

医師としてあるべき態度・姿勢

患者情報保護・医療安全に配慮しながら、患者・家族と良好な関係を築くとともに、医療チームの一員として利他的な姿勢で行動することができる。

- 患者情報保護の意義を理解し実践できる。
- 医療安全・医療資源の保護を通じて、医療の質を継続的に向上させることができる。
- 患者の福利と自立性を尊重し、患者・家族と良好な関係を築くことができる。
- 専門職としての医師の役割を理解し、チーム医療を実践できる。

研究者としての基本的能力

研究倫理に基づき、自ら研究計画を作成・実行し、得られた結果を解析するとともに、発表・討論ができる。

- 研究倫理を身につけ、医学研究における自らの役割を理解し実践できる。
- 研究計画を作成し、基本的研究手技を実践できる。
- 研究結果を解析し、発表・討論ができる。

国際的な視野とコミュニケーション能力

グローバルな視点から医療を見つめ、異なる価値観を尊重することで、良好なコミュニケーションを図ることができる。

- 異なる価値観を尊重し、円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- 我が国の医療・医学研究の現状を国際的視野で理解する。
- 外国語で発表・討論ができる。
- 外国語で問診・診察・説明ができる。

地域および国際医療・保健に対する理解と貢献

地域および国際医療・保健の意義を理解し実践できる。

- 地域医療・保健の現状と問題点を把握し、医師として果たすべき役割を理解する。
- 地域医療を実践できる。
- 国際医療・保健において、医師・研究者として貢献可能な役割を理解する。

キャリア設定能力

自己の将来計画をもとに、卒後のキャリア設計を構築できる。

- 臨床研修・専門医研修・大学院と進む各段階の意味を理解する。
- 行政医師・医学研究者の役割を理解する。
- 自己の将来計画をもとに、キャリア設計ができる。





04 独自性も含め充実した教育 カリキュラム

Curriculum

広い視野と多様性を育てる教育。進取な精神と先見性を。

高度な専門性を基盤としながら幅広い教養教育を通じて、
「複眼的な視点」と「俯瞰的な視点」を養う。
能動的な学びを通して、世界へと視野を広げ、異文化を理解し、
世界の人々と対話できる人材へ。

あなたの**夢**の礎となる学び

大阪大学医学部医学科では学年ごとに、共通教育、基礎医学、臨床医学へとカリキュラムが進んでいきますが、その中に本学独自の特色あるプログラムが組み込まれています。平成27年度新入生より、研究者の育成、教育の国際化、臨床実習の充実を主要テーマにカリキュラムを一新しました。また、大阪大学MD研究者育成プログラムを継続し、将来の研究者の育成を目指しています。

● 共通教育と最先端の臨床、研究に触れるカリキュラム

入学後はまず豊中キャンパスにて約1年半、全学部 of 学生が一堂に会して一般教養科目を履修します。これを共通教育と呼びます。共通教育科目から医学科の専門科目への移行は段階的に進むように「くさび型」になっています。医学科では、入学直後から基礎医学研究者による講義と臨床医学の話題を盛り込んだ医学序説、基礎医学研究に直接触れる基礎医学体験実習、最先端の臨床医学を附属病院で体験する早期臨床体験実習、などを導入しています。

● 基礎医学講義と実習 (1-3年生)

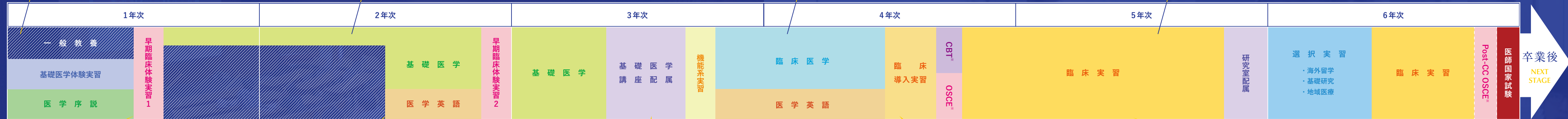
1年生後期から基礎医学の講義が始まります。具体的には、分子細胞生物学、遺伝学、生化学などの生命科学の根幹をなす分野の講義が開始されます。2年生からは吹田キャンパスに移って、本格的に基礎医学の講義と実習が始まります。解剖実習、基礎医学実験を通じて、医学部の学生であることをあらためて実感します。またこの学年から、医学英語が開始されます。3年生での基礎医学講座配属は、基礎医学における自主的な研究の場として半世紀近い歴史を持つ本学の名物科目の一つで、約3ヶ月間各講座に配属されて基礎医学研究に専念します。この期間に国際的な医学雑誌に掲載されるような研究成果を挙げる学生もいます。

● 臨床医学と臨床導入実習(4年生)

3年生の1月から臓器別の臨床講義が始まります。また、4年生の秋から臨床導入実習が開始されます。臨床導入実習は臨床実習の準備教育であり、医療面接、基本的な診察方法、外科手技、救急蘇生法などについて模擬患者やシミュレーターを用いて実習します。4年生の最後に医学生の知識・技能・態度を評価するための全国共通試験(CBT※およびOSCE※)に合格すると晴れて臨床実習への参加が許可されます。4年生の1月からいよいよ臨床実習が開始されます。

● 臨床実習 (5-6年生)

4、5、6年生の臨床実習では、内科、外科、救急、麻酔科を中心とした実習が6カ月あり、その後、それ以外の診療科の臨床実習が開始されます。この時期になると、患者さんと直接接することで、医師になることを実感します。5年生の最後の2カ月では、臨床研究も選択可能な研究室配属の期間を設けています。臨床実習は、主に大阪大学医学部附属病院で行いますが、学外の関連病院での実習も組み込んでいます。大阪大学の臨床実習は、診療参加型のクリニカル・クラークシップ※制を導入しています。これは学生が、診療チームの一員となって病棟での診療に参加する実習システムです。6年生の前半の3カ月は1カ月単位の選択実習期間で、この期間は学生の志向に合わせて、臨床実習、海外留学、基礎研究、地域医療などの選択が可能です。本学では6年生後半の卒業試験を廃止しており、臨床実習終了後は総合的な臨床能力を確認するためのPost-Clinical Clerkship OSCE (Post-CC OSCE)を導入しています。



2年次
渡邊 美怜
WATANABE Mirei

先輩からの Voice

1年次は豊中キャンパスで一般教養を中心に学びました。線形代数学や統計学、電磁気学、力学、化学・生物の実験などの理系科目に加えて、英語や第二外国語、文系科目も選択することができる基礎教養科目、学部への扉などの授業で幅広い内容学びます。「学部への扉」では、文系関係問わず他学部の学生たちと少人数で議論したり、プレゼンのやり方などについて指導していただいたりしたことで発信力も鍛えることができ、自分の考えを深める良い機会になりました。また、英語と第二外国語は2年次の前半まで続き、段階的に語学力を高めることができます。多様な学びや他学部との交流を通して、視野が広がりました。



3年次
HIGASHIYAMA Takashi
東山 隆

先輩からの Voice

2年次の基礎医学講義では、「人体の正常な構造と機能」について学び、3年次の基礎医学講義では「疾患の機序」「病原体と免疫系の関係」「薬の作用機序」といった、より臨床に近い内容へと進みます。講義が進むにつれて、それまでに学んだ内容の点と点がつながり、複雑な生命現象への理解が格段に深まります。さまざまな疾患の病態を正確に把握し、適切な診断・治療法を選択するためには、その根幹をなす基礎医学の理解が不可欠です。

ここで得た知識のひつとひとつ、そして探求する姿勢そのものが、将来、患者さんひとりひとりに真摯に向き合い、最善の医療を提供できる医師となるための、かけがえのない礎になると信じています。皆さんと大阪大学の恵まれた環境で共に学び、切磋琢磨できる日をお待ちしています。



4年次
MIKI Erina
三木 絵里奈

先輩からの Voice

3年次では「基礎配属」と基礎配属では、9月からのます。私は統合薬理学教研究計画の立案から文献表に至るまでの研究におけるにいかないことも多く、何変さと、同時にやりがいを問と協力しながら難しい課題ションが養われまして、講義とは異なる学び



5年次
TAMADA Yukina
玉田 雪菜

先輩からの Voice

臨床医学の講義では、診療科ごとに疾患の病態や治療法などについて詳しく学びます。教科書レベルの知識だけでなく、臨床現場での対応や最新の研究内容といった発展的な内容まで習うので、とても有意義な期間になりました。この1年間で、将来どの診療科に進みたいか少しずつ決まってくる人も多いのではないのでしょうか。

臨床導入実習は8人程度のグループにわかれ、実際に病院で働かれています。先生から基本的な診察方法や外科手技を教わります。ここで身につけた内容は、後の病院実習で実践できなければいけないので、友達同士でも自主的に練習をしてみました。初めて自分のスコープや聴診器を手に入れて、より一層気が引き締まるとともにテンションも上がります。



6年次
宇野 魁志
UNO Isayuki

先輩からの Voice

4年次の1月から病院での臨床実習が始まります。診療科を順番に回る形で進行し、幅広く臨床現場に触れる事ができます。基礎医学、臨床医学の講義で学んだ知識通りに診療が進む事であれば一筋縄では行かない事もあり、臨床診療の奥深さを実感します。実習内容は、患者さんへの問診、カンファレンスでの症例報告、手術見学など、科によって様々です。私は、生体システム薬理学教室金井先生の元でLAT1（がん細胞に高発現するアミノ酸トランスポーター）阻害薬の研究を行っている事もあり、抗がん薬を変更しながら、がんと闘っておられる患者さんを担当する事が特に心に残っています。この様に、一人一人異なる経験を積みながら臨床医療を勉強し、自分に合った診療科を見つけて行きます。

※ 用語解説 CBT：知識試験 OSCE：実技試験 Post-CC OSCE：卒業前の臨床能力を評価する総括試験 ポリクリ（ポリ・クリニック）：見学型実習 クリクラ（クリニカル・クラークシップ）：参加型臨床実習 基礎医学：正常なヒトのからだについて、疾患とその原因・くりに
生化学：生物を構成する物質とその役割、代謝などを研究する学問 遺伝学：生物の形質の伝達、発現の様式と機構などを研究する学問 医学英語：学術論文のリテラシーの習得や学生・卒業後の海外でのキャリアを見据えた英語の医学専門用語のレクチャー 早期臨床

についての学問。臨床医学や医学研究の基礎となる。 生理学：ヒトのからだの働きとその仕組みなどを研究する学問 形態学：ヒトのからだの構造やその形成・分化などを研究する学問
 体験実習（2年次）：阪大病院の看護師・薬剤師・管理栄養士の業務を体験実習

卒業後の進路

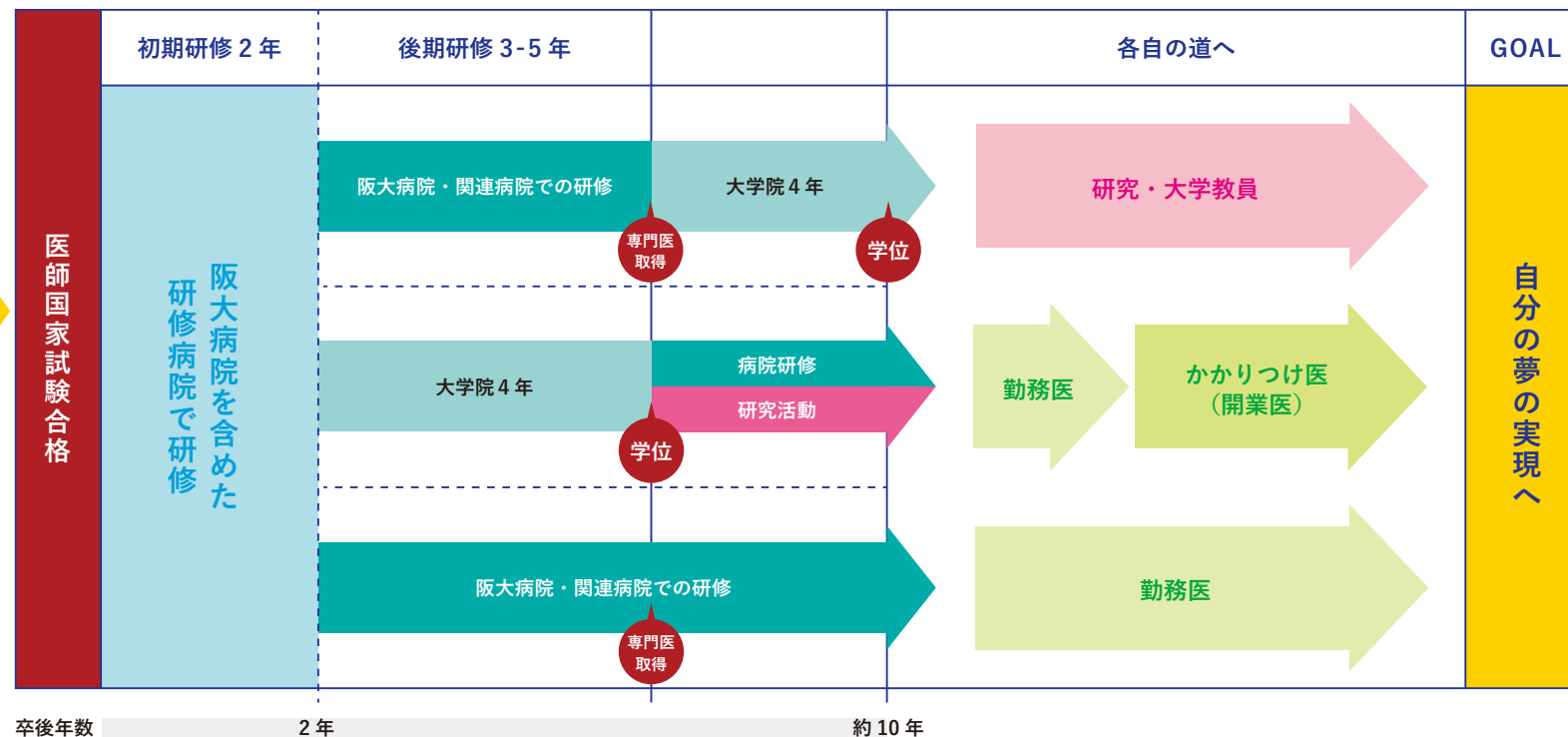
大学卒業後、医師国家試験に合格したのち、2年間の初期臨床研修に従事します。

大阪大学医学部附属病院では、2年間の研修で厚生労働省が定めた行動目標、経験目標を円滑に達成できます。

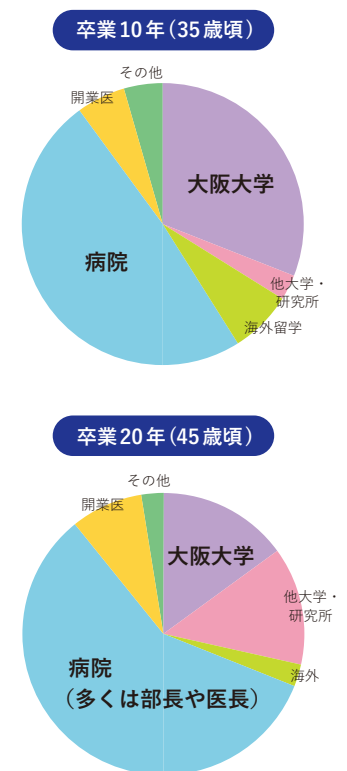
必修科目（内科、救急部門、地域医療）、選択必修科目（外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科 最低各1ヶ月）に加え、すべての診療科より選択して研修できる期間を8ヶ月設け、広範囲かつより高度な内容の研修を行っています。

2023年より基礎研究医養成プログラムである「大阪大学MD 研究者育成研修コース」を設置しました。

卒後20年ぐらいまでの主なキャリア形成と、具体的に阪大生がどのような進路に進むのかを示します。



卒後臨床研修は、卒後1～2年目の初期研修、卒後3～5年目の後期（専門医）研修があります。



卒業生の3分の1は研究者や教育者に

大阪大学MD研究者育成プログラム

将来、研究者を目指す学生に対して、入学直後から基礎医学研究に参加する特別教育プログラムを実施することで、世界をリードする研究能力と国際的視野を兼ね備えた医学研究者を養成することを目指しています。本プログラムは平成21年度から開始されており、例年、70名程度の学生が参加します。詳しくは医学科ホームページをご覧ください。

<https://www.med.osaka-u.ac.jp/education/feature>

(トップページ → 入試・教育情報 → 特色ある教育制度)



6年次

千歳 康弘
SENZAI Yasuhiro

先輩からのVoice

大阪大学には3、5年生の研究室配属、6年生の選択実習という海外留学に行く機会があります。留学先として協定校も複数ありますが、世界中の研究施設に所属おられる先輩方のネットワークがあるので、自分がしたい、見てみたい、行ってみたいと思う海外大学、研究施設、海外の病院を留学先として選ぶことも可能です。私はこの制度を利用し、5年生の研究室配属期間に私が現在所属している研究室のOBのつながりでアメリカYale大学Department of immunobiologyのWei Hu Labに2ヶ月間留学しました。留学中は所属先の研究室で進行されている免疫関連の遺伝子組換えのプロジェクトに参加させてもらい、2ヶ月という非常に短い期間ではありましたが、海外での研究というものを経験することができました。さらにラボミーティングや免疫や神経に関する講演などにも頻繁に参加しました。研究以外でも医学系統の研究者だけでなく、他学部の学生や、いろいろな分野で研究を続けておられる日本人の方とも交流することができ、その中で新たな考え、将来への指針を感じ取ることができました。ここで得られた交流は今でも続いていますし、一生に残る貴重な経験ができました。自分のやりたいこと、「オモロい!」と思うことを追求すべく、国際交流に参加し、自分の視野を広げてください。そのための支援制度も用意されています。日本だけでは得られないような何かを身につけ「オモロい!」経験をしましょう。



4年次

水野 佐和子
MIZUNO Sanae

先輩からのVoice

本学には、自ら未来を創り出す挑戦の機会が数多くあります。その一つが医学部医学科のMD研究者育成プログラムです。このプログラムでは、学生が自分の興味に合わせて自由に研究室を選び、最先端の研究に携わることができます。そして、多くの参加学生が在学中に学会発表や論文投稿を果たしています。また、本学には全国から高い志と優れた才能を持つ仲間たちが集結しており、彼らと互いに刺激し合いながら切磋琢磨できる点も、本プログラムの大きな魅力です。さらに、全国の大学のMD研究者育成プログラム参加学生や世界中で活躍する研究者たちと、大学の枠を越えて交流する機会も多く、貴重な学びや広い視野を得ることができます。

私も入学当初から研究室に所属し、日々、未知の課題に挑戦しています。どんなに小さなテーマでも、それは世界でまだ誰も解明していない科学への挑戦です。実験の一つひとつが新しい気付きを与えてくれ、日々やりがいと感動を味わっています。もちろん、医学科の勉強と研究との両立は決して容易ではありませんが、多くの方々の温かい支えによって続けることができています。このプログラムを通して得られた学びや出会えた仲間は、私にとってかけがえのない人生の宝です。

少しでも研究に興味がある人は、ぜひ研究室の扉を叩いてみてください。きっと、想像もしなかった新しい世界が待っているでしょう。



国際交流

2016年度から、2年生の医学英語の履修が必修化され、英語での発表、診察、海外留学が可能になるよう、医学英語専任教員が指導を行っています。現在は、モナシュ大学、ソルボンヌ大学、国立台湾大学など10校と交流協定を結んでおり、これらの大学で短期間の臨床実習に参加することができます。

一方、大阪大学医学部医学科ではこの10校の学生を含む30名以上の短期留学生を毎年受け入れており、研究実習や病院実習の指導を行っています。教員だけでなく、学生も留学生と交流することで国際感覚を養うことができます。

05 自由闊達な精神を キャンパスライフ

Campus life



学びは、学問だけではない。

課外活動

医学部では、医学部独自の課外活動クラブがあります。

- ・体育会では、西日本医科学生総合体育大会出場（医学部医学科所属の学生のための大会）を中心として活動を行っています。
- ・文化会では、医学部ならではの特徴を活かした活動を行っています。



体育会 (15 団体)

- | | | | |
|---------|----------|------------|----------|
| ・硬式テニス部 | ・サッカー部 | ・スキー部 | ・軟式庭球部 |
| ・準硬式野球部 | ・ボート部 | ・バスケットボール部 | ・バレーボール部 |
| ・ゴルフ部 | ・バドミントン部 | ・水泳部 | ・ラグビー部 |
| ・山岳部 | ・卓球部 | ・剣道部 | |

文化会 (6 団体)

- | | |
|----------|----------|
| ・国際医療研究会 | ・コンピュータ部 |
| ・MESS | ・軽音学部 |
| ・合奏団 | ・和漢薬研究会 |

中之島祭

医学部医学科では、毎年12月頃に、学生主体の学園祭「中之島祭」を行っています。

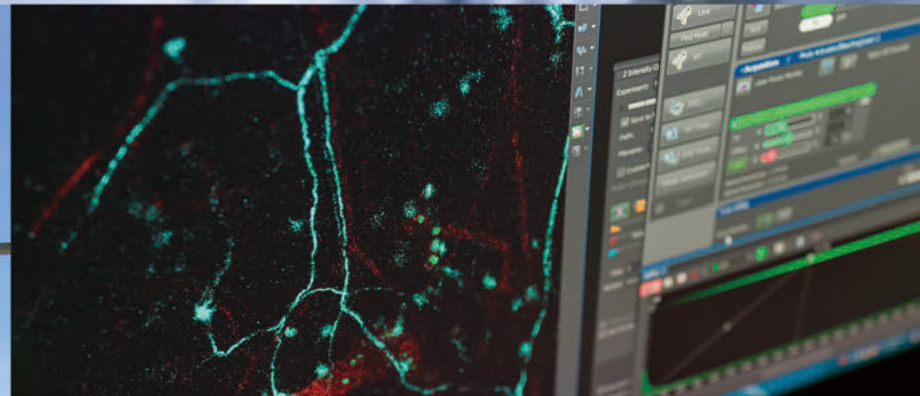
この学園祭は、かつて医学部が中之島にあった頃から、「中之島祭」として親しまれてきた長い歴史を持つ行事です。





06 医学を志すあなたへ メッセージ

Message



次世代の医学・医療を切り拓く

大阪大学医学部医学科は、江戸時代後期に日本最高の西洋医学教育を行っていた適塾を源流とし、開学以来、長きに亘って本邦における医学教育や臨床診療において中心的な役割を果たし、多くの有為な人材を輩出してきました。また数多くの世界最高レベルの医学研究の成果を生み出し、人類の医療の発展に貢献してきました。大阪大学医学部は、その歴史と伝統を継承するのみならず、医学界のフロンティアランナーとして、常に新しいことに挑戦し続け、日本の医学・医療を牽引する存在であり続けています。

即ち、大阪大学医学部医学科は単に医師を養成する職業訓練学校ではありません。卒業後には、臨床医として、医学研究者として、またその他、医師・医学者が進む様々なキャリアにおいて、それぞれの最前線に立って、常にその分野を牽引し続けるリーダーを養成しています。そのためには大阪大学医学部医学科では、単に現在の医学、医療を受け身で習得するだけでなく、いまはまだ解明されていない体の仕組みを理解し、まだ治せない病気を治療すべく、将来の医学、医療を切り拓こうとする姿勢をもって、勉学に励んで頂きます。

医学・医療の日進月歩は激しく、毎日のように新しい発見がもたらされています。しかしながら、それでもなお、今日でも多くの病気はその原因が不明で根本的な治療法がなく、世界中で多くの患者さんやその家族が病に苦しんでいます。大阪大学医学部医学科では、この未知の病を解明し治療すべく、日々研究・臨床に取り組んでいる多くの教職員がいます。大阪大学医学部医学科の学生には、この戦いに一緒に加わって頂きます。国内外の最前線で活躍する教員や先輩とともに、次世代の医学・医療をともに切り拓きましょう。一度キリの人生ですから、自らの能力と運、勤を信じて、できるだけ大きな夢を持って、大胆に挑戦してください。そして優れた成果を挙げて、不治の病を治し、世界に羽ばたいて活躍してください。私たちはその挑戦を全力で支援し、その発展を心より期待しております。

医学系研究科長・医学部長

石井 優



Operated by
Hirata Gakuen

あなたの夢が、阪大の光となる。



大阪大学大学院医学系研究科・医学部
The University of Osaka Graduate School of Medicine/Faculty of Medicine

〒565-0871 吹田市山田丘2-2

Mail : i-kyomu-gakuseishien@office.osaka-u.ac.jp

URL : <https://www.med.osaka-u.ac.jp/>